

プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
①	2017年 7月12日 7月21日 11月22日 12月14日 2018年 1月11日	2号機	原子炉建屋（管理区域）防火壁貫通部の 防火処置未実施について（区分Ⅲ）	<p>【発生状況】 2017年7月11日、2号機原子炉建屋地下1階および地下5階（管理区域）の階段室において、防火区画として設定している壁の貫通部に対して、防火処置が施されていない箇所が計2箇所あることを確認しました。 このため状況調査を行った結果、当該貫通部の状態は、建築基準法に抵触すると判断しました。</p> <p>【対応状況】 2018年1月11日に柏崎市建築主事に貫通部60箇所に関する是正計画書を提出しました。 現在、迅速且つ確実な是正作業を行うため、建設当時の貫通孔の設計、施工の考え方等について原因の深掘りを行っております。この深掘り作業の過程において、これまでの調査の対象範囲に防火壁以外の壁を含んでいたことや、現場において、高所の貫通部をカメラで確認した際に、カメラの位置によっては見方が不十分であった箇所があることが判明したこと等から、精査・再調査すべきと判断しました。 貫通部60箇所については、現在精査中ですが、確定した対象箇所より順次、是正作業を実施しております。 再調査の方針については、2017年11月の調査結果について精査が必要になった原因の調査並びにそれに対する対策を踏まえて取り纏めていくこととしました。 (2018年1月11日までにお知らせ済み)</p> <p>【これまでに確認されたこと】 これまでの調査においては、現場にて全ての防火壁について直接目視またはカメラによる間接目視にて調査を行い、防火壁毎の健全性確認を実施しました。抽出された是正対象箇所について、建設当時の貫通孔の設計、施工の状況等について詳細に確認をするとともに、是正作業を進めていく中で、以下のことが確認されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査に用いた防火区画図に変更があったものの、一部の調査において変更前の図面をもとに調査を行っていたため、防火壁以外の壁についても調査を行っていたこと。 ・是正作業を進める中で、現場の再確認を行ったところ、問題がないと判断していた貫通部に防火処置未実施箇所が1箇所確認されたこと。 ・上記と同様の箇所がある可能性について確認しようとしたところ、問題のない貫通部については写真等の記録を残していなかったため、調査記録の確認だけでは全ての貫通部について健全性を判断することが難しいこと。 <p>【今後の対応方針】 これまでの調査結果についての精度を高めるために、防火壁の貫通部についてあらためて調査を実施いたします。 今後の調査にあたっては、最新の図面をもとに現場確認を実施することとし、現場確認においては、適切な照度を確保したカメラによる点検または足場等を用いた直接目視による点検を行うとともに、確認した貫通部毎に全て記録してまいります。また、確認された防火処置未実施箇所については、調査と並行して速やかに是正措置を実施してまいります。</p>

プレス公表（運転保守状況）

No.	お知らせ日	号機	件名	内容
②	2018年 1月23日 2月5日	6号機	業務用エアコンのフロン排出抑制法に基づく簡易点検の未実施について（区分その他）	<p>【発生状況】 主発電機励磁装置盤室に設置している業務用エアコンにおいて、設備所管でのフロン排出抑制法に基づく簡易点検が行われていないことを確認しました。当該事象の原因を調査、および他設備についても類似事象がないか確認を実施しています。</p> <p>【対応状況】 当該事象について、他設備でも類似事例がないか調査を実施し、2月5日に長岡地域振興局へ、現在の調査状況の中間報告を行いました。これまでの調査では、冷却装置やスポットクーラーなど46件の類似事例が確認されており、その内1件は定期点検も行われていないことが確認されました。（現時点で、1月23日に確認されたものを含め、計48件） 点検が行われていなかった設備については、速やかに簡易点検を行い異常のないことを確認しました。 引き続き調査を行うとともに、原因の究明と再発防止対策の取りまとめを進めてまいります。 (2018年2月5日までにお知らせ済み)</p>
③	2018年 1月29日	3号機	循環水ポンプ吐出弁ピット（屋外）における水の漏えいについて（区分Ⅲ）	<p>【発生状況】 2018年1月28日午前10時20分頃、当社社員が3号機の屋外をパトロールしていた際に、現場制御盤に循環水ポンプ吐出弁ピット内の排水弁の水位上昇を示す表示ランプを確認しました。 その後、当該エリアを巡視したところ、循環水ポンプ吐出弁ピットおよび循環水ポンプエリアに約270トンの水が溜まっていることを確認しました。 現場調査の結果、復水器の洗浄装置につながる配管の接続部から水（非放射性）が漏えいしていることを確認しました。このため、当該の配管の元弁を閉止したことにより漏えいは停止しております。</p> <p>なお、当該系統は現在使用していないことから、プラント設備への影響はありません。 本事象による外部への放射能の影響はありません。</p> <p>【対応状況】 漏えいした水は排水ポンプで排水処理を実施しました。 配管からの漏えいに至った原因については現在調査中です。 (2018年1月29日お知らせ済み)</p>